

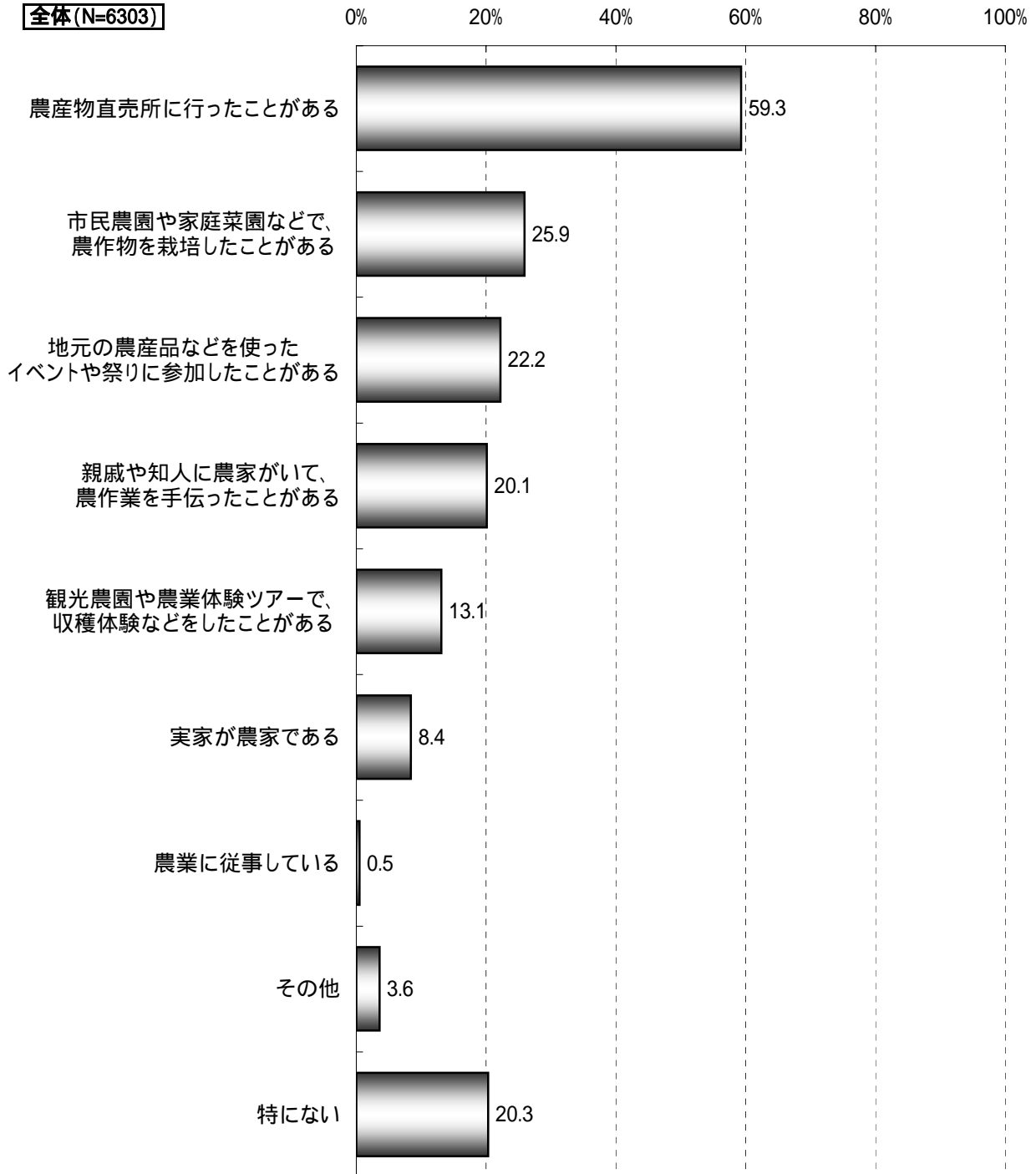
テーマ4 「新たな都市農村交流のあり方」について

農業・農村地域との関わりについて

問15.あなたは、農業や農村地域とどのような関わりがありますか。あてはまるものすべてに をつけてください。

・農業・農村地域との関わりについては、「農産物直売所に行ったことがある」(59.3%)が最も多い。

全体(N=6303)



【対象者全体】 農業・農村地域との関わりについては、「農産物直売所に行ったことがある」(59.3%)が最も多く、次いで「市民農園や家庭菜園などで、農作物を栽培したことがある」(25.9%)、「地元の農産品などを使ったイベントや祭りに参加したことがある」(22.2%)と続く。

	対象者数	農産物直売所に行ったことがある	市民農園や家庭菜園などで、農作物を栽培したことがある	地元農産品などを使ったイベントや祭りに参加したことがある	親戚や知人に農家がいて、農作業を手伝ったことがある	観光農園や農業体験ツアーで、収穫体験などをしたことがある	実家が農家である	農業に従事している	その他	特になし	
(%)											
対象者全体	6,303	59.3	25.9	22.2	20.1	13.1	8.4	0.5	3.6	20.3	
性別	男性	2,358	55.6	24.7	19.6	22.0	11.2	8.6	0.6	4.2	22.9
	女性	3,921	61.6	26.6	23.8	18.9	14.3	8.2	0.5	3.2	18.8
年代別	20歳～29歳	696	48.4	17.4	25.9	23.3	15.8	4.6	-	2.4	28.9
	30歳～39歳	1,113	59.9	22.6	27.1	21.5	17.5	5.4	-	3.3	21.5
	40歳～49歳	1,149	62.4	21.6	25.2	19.7	14.9	7.7	0.3	2.9	21.2
	50歳～59歳	1,243	61.2	26.8	21.2	19.1	12.5	10.8	0.1	4.3	19.5
	60歳～69歳	1,213	65.0	35.3	19.5	18.5	11.0	9.8	0.9	3.5	15.1
	70歳以上	875	52.2	28.3	14.5	19.7	7.1	10.5	1.8	4.7	19.2

対象者全体の値と比較し10%以上高い
 対象者全体の値と比較し10%以上低い

【性別】 性別で、大きな差はみられない。

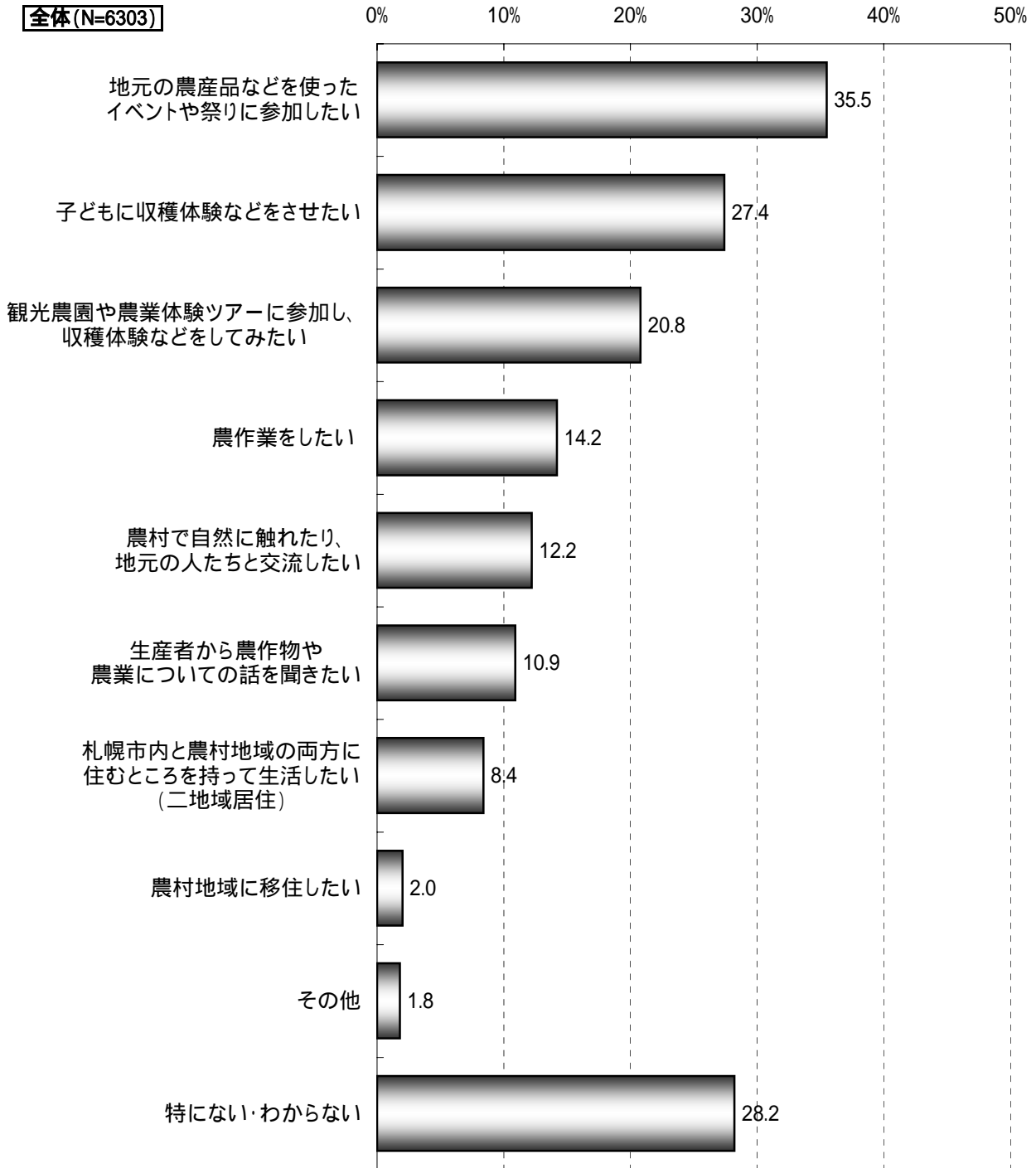
【年代別】 年代別にみると、20代層で「農産物直売所に行ったことがある」(48.4%)のスコアが、対象者全体と比較し10ポイント以上低くなっている。

テーマ4 「新たな都市農村交流のあり方」について

近隣市町村の農村地域に行ってみたいこと

問16.あなたは、近隣市町村の農村地域に行って、何かしてみたいことがありますか。あてはまるものすべてに をつけてください。

・近隣市町村の農村地域に行ってみたいことは、「地元の農産品などを使ったイベントや祭りに参加したい」(35.5%)が、最も多い。



【対象者全体】 近隣市町村の農村地域に行ってみたいことをみると、「地元の農産品などを使ったイベントや祭りに参加したい」(35.5%)が最も多く、次いで「子どもに収穫体験などをさせたい」(27.4%)、「観光農園や農業体験ツアーに参加し、収穫体験などをしてみたい」(20.8%)と続く。

	対象者数	地元 の農産 品など を使っ たイ ベント や祭り に参加 した たい	子ども に収穫 体験な どをさ せ たい	参加し 、収穫 体験な どをし て みたい	観光農 園や農 業体験 ツアー に	農作業 をした い	農村で 自然に 触れた り、地 元 の人 たちと 交流し たい	生産者 から農 作物や 農業に つ いての 話を聞 きたい	札幌市 内と農 村地域 の両方 に 住むと ころを 持つて 生活し たい (二地 域居住)	農村地 域に移 住した い	その他	特にな い・わ からな い
(%)												
対象者全体	6,303	35.5	27.4	20.8	14.2	12.2	10.9	8.4	2.0	1.8	28.2	
性別	男性	2,358	31.1	24.3	17.3	16.5	14.0	13.6	10.1	2.7	2.1	31.0
	女性	3,921	38.3	29.3	22.9	12.7	11.1	9.4	7.4	1.5	1.6	26.4
年代別	20歳～29歳	696	40.8	35.1	27.3	13.9	15.4	9.6	8.0	2.4	0.9	26.9
	30歳～39歳	1,113	44.6	50.0	26.9	12.8	12.2	10.1	6.0	2.0	1.0	19.8
	40歳～49歳	1,149	39.3	34.2	22.1	12.4	10.0	9.9	8.2	2.1	1.1	27.5
	50歳～59歳	1,243	34.0	17.5	18.9	13.1	10.4	11.6	11.5	1.8	1.4	31.8
	60歳～69歳	1,213	30.6	16.0	18.1	17.1	14.3	12.8	9.4	2.6	2.9	30.4
	70歳以上	875	24.3	13.3	12.6	15.5	12.3	11.0	6.4	0.8	3.5	32.7

対象者全体の値と比較し10%以上高い
 対象者全体の値と比較し10%以上低い

【性別】 性別で、大きな差はみられない。

【年代別】 年代別にみると、30代層で「子どもに収穫体験などをさせたい」(50.0%)のスコアが、対象者全体と比較し20ポイント以上高くなり、逆に60代層、70歳以上層では10ポイント以上低くなっている。また、若年層ほど「観光農園や農業体験ツアーに参加し、収穫体験などをしてみたい」のスコアが高くなる傾向となっている。

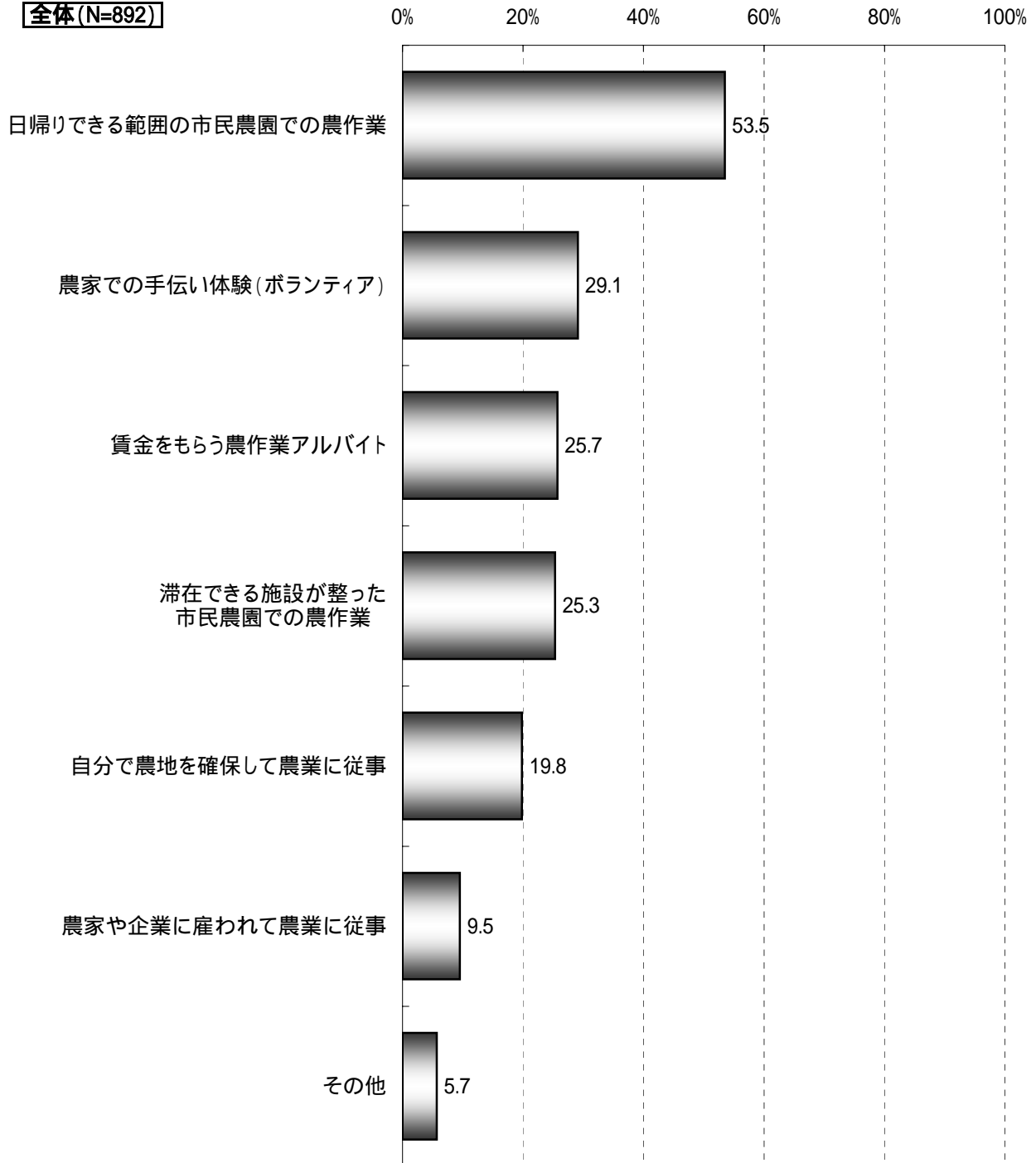
テーマ4 「新たな都市農村交流のあり方」について

やってみたい農作業の形態

問16で、「6 農作業をしたい」と答えた方にお聞きます
問16-1.あなたは、どのような形態で農作業をしたいですか。あてはまるものすべてに をつけてください。

・やってみたい農作業の形態は、「日帰りできる範囲の市民農園での農作業」(53.5%)が最も多い。

全体(N=892)



【対象者全体】 やってみたい農作業の形態をみると、「日帰りできる範囲の市民農園での農作業」(53.5%)が最も多く、次いで「農家での手伝い体験(ボランティア)」(29.1%)、「賃金をもらう農作業アルバイト」(25.7%)と続く。

		対象者数	で日帰りができる範囲の市民農園での農作業	農家での手伝い体験（ボランティア）	賃金をもらう農作業アルバイト	滞在できる施設が整った市民農園での農作業	自分で農地を確保して農業に従事	農家や企業に雇われて農業に従事	その他
		(%)							
対象者全体		892	53.5	29.1	25.7	25.3	19.8	9.5	5.7
性別	男性	389	54.8	27.5	21.3	25.7	26.7	13.4	4.9
	女性	498	52.4	30.7	29.3	24.9	14.5	6.6	6.4
年代別	20歳～29歳	97	49.5	34.0	42.3	29.9	21.6	13.4	3.1
	30歳～39歳	143	60.1	25.9	32.9	27.3	21.7	14.0	1.4
	40歳～49歳	143	55.9	28.0	34.3	21.7	16.1	14.7	2.1
	50歳～59歳	163	47.2	31.9	27.6	30.1	25.2	10.4	6.7
	60歳～69歳	207	58.0	29.0	18.4	26.6	16.9	5.3	4.8
	70歳以上	136	47.8	27.2	6.6	16.9	18.4	2.2	15.4

対象者全体の値と比較し10%以上高い
 対象者全体の値と比較し10%以上低い

【性別】 性別で見ると、男性層で「自分で農地を確保して農業に従事」(26.7%)のスコアが、対象者全体と比較し5ポイント以上高くなり、女性層(14.5%)と比較すると10ポイント以上高くなっている。

【年代別】 年代別で見ると、20代層で「賃金をもらう農作業アルバイト」のスコアが、対象者全体と比較し15ポイント以上高くなるのに対し、70歳以上層では15ポイント以上低くなっている。

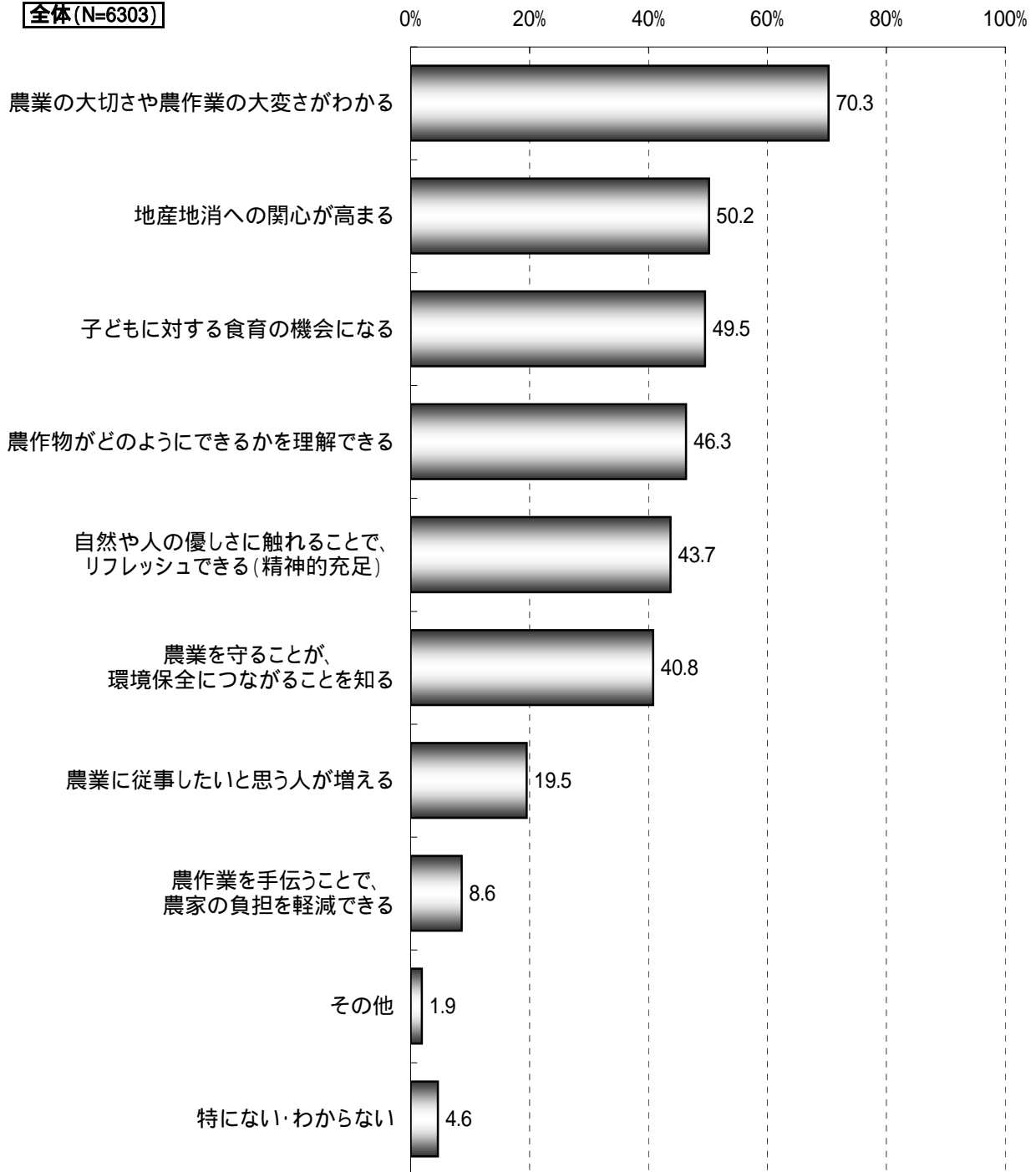
テーマ4 「新たな都市農村交流のあり方」について

札幌市民が農村地域と交流することによる効果

問17.都市に住む札幌市民が農村地域と交流することによって、どのような効果が得られると思いますか。
あてはまるものすべてに をつけてください。

・札幌市民が農村地域と交流することによる効果は、「農業の大切さや農作業の大変さがわかる」(70.3%)が最も多い。

全体(N=6303)



【対象者全体】札幌市民が農村地域と交流することによる効果は、「農業の大切さや農作業の大変さがわかる」(70.3%)が最も多く、次いで「地産地消への関心が高まる」(50.2%)、「子どもに対する食育の機会になる」(49.5%)と高いスコアが続く。

	対象者数	農業の大切さや農作業の大変さがわかる	地産地消への関心が高まる	子どもに対する食育の機会になる	農作物がどのようにできるかを理解できる	自然や人の優しさに触れることで、リフレッシュできる(精神的充足)	農業を守ることが、環境保全につながることを知る	農業に従事したいと思う人が増える	農作業を手伝うことで、農家の負担を軽減できる	その他	特にない・わからない	
(%)												
対象者全体	6,303	70.3	50.2	49.5	46.3	43.7	40.8	19.5	8.6	1.9	4.6	
性別	男性	2,358	66.6	47.7	43.0	43.2	43.3	38.6	18.5	7.4	2.8	6.3
	女性	3,921	72.6	51.8	53.6	48.1	44.0	42.2	20.1	9.3	1.4	3.5
年代別	20歳～29歳	696	69.4	47.1	54.9	50.1	50.1	32.9	29.0	8.5	2.2	3.9
	30歳～39歳	1,113	70.0	54.0	62.7	51.1	44.2	31.9	21.7	5.6	2.3	4.0
	40歳～49歳	1,149	71.5	53.3	53.7	49.0	41.3	36.4	19.7	8.5	2.3	3.8
	50歳～59歳	1,243	72.5	53.2	46.3	45.5	42.8	47.6	18.1	8.2	1.7	3.5
	60歳～69歳	1,213	71.6	48.9	41.6	41.7	45.8	50.5	16.6	10.4	1.2	4.6
	70歳以上	875	64.9	41.6	38.9	40.7	39.9	41.4	15.0	10.5	1.8	8.3

対象者全体の値と比較し10%以上高い
 対象者全体の値と比較し10%以上低い

【性別】 性別でみると、対象者全体で3番目のスコアだった「子どもに対する食育の機会になる」が、男性層(43.0%)では5番目に留まり、対象者全体と比較し5ポイント以上低くなっている。

【年代別】 年代別でみると、30代層で「子どもに対する食育の機会になる」(62.7%)のスコアが、対象者全体と比較し10ポイント以上高くなるのに対し、70歳以上層では10ポイント以上低くなっている。

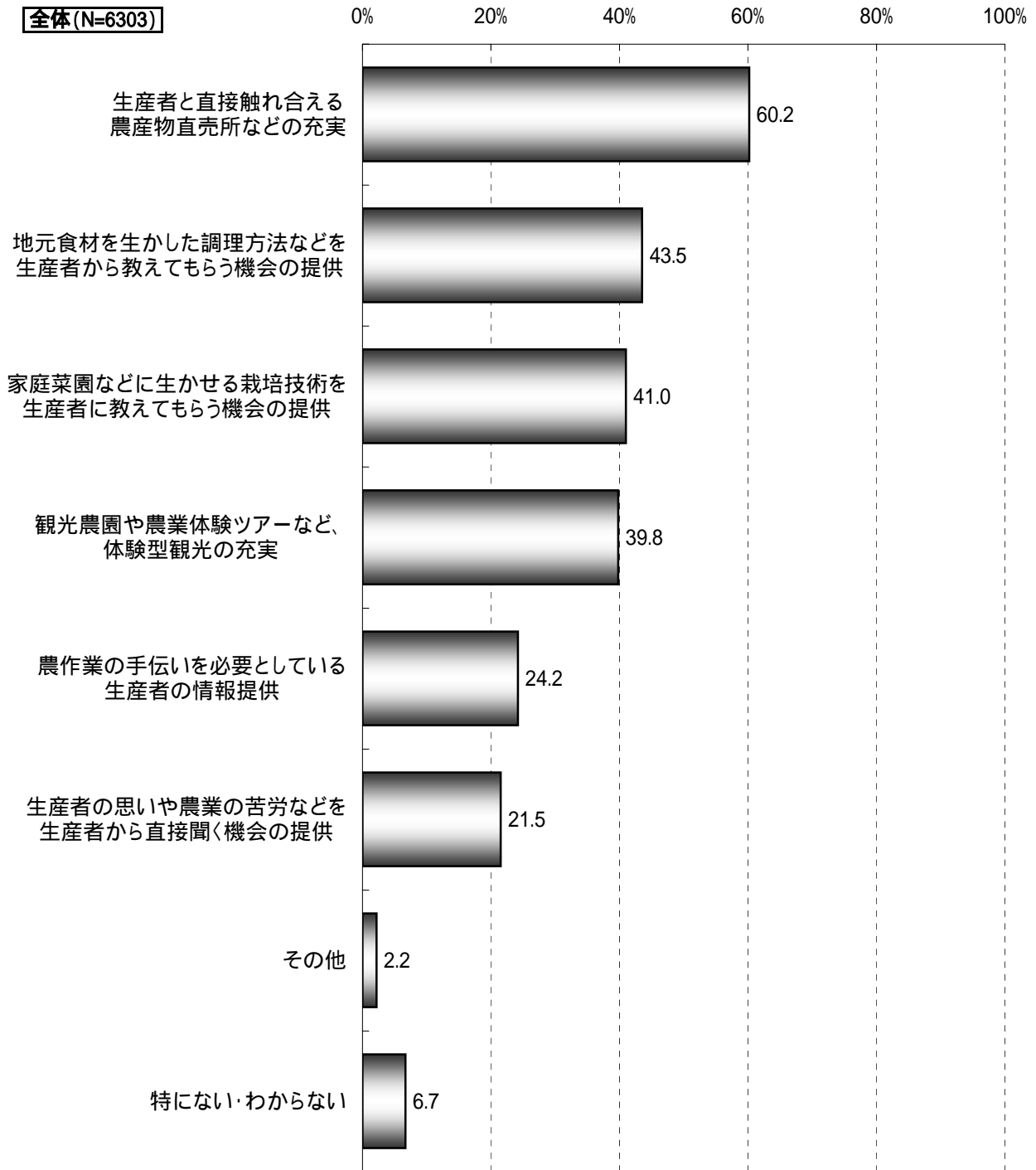
テーマ4 「新たな都市農村交流のあり方」について

札幌市民が農村地域との交流機会増加のために必要な環境

問18.都市住民(札幌市民)と農村地域との交流が増えるためには、どのような環境が整えば良いと思いますか。あてはまるものすべてに をつけてください。



・札幌市民が農村地域との交流機会増加のために必要な環境は、「生産者と直接触れ合える農産物直売所などの充実」(60.2%)が最も多い。

全体(N=6303)



【対象者全体】札幌市民が農村地域との交流機会増加のために必要な環境は、「生産者と直接触れ合える農産物直売所などの充実」(60.2%)が最も多く、次いで「地元食材を生かした調理方法などを生産者から教えてもらう機会の提供」(43.5%)、「家庭菜園などに生かせる栽培技術を生産者に教えてもらう機会の提供」(41.0%)と続く。

	対象者数	生産者や販売業者などとの直接触れ合える農産物の提供	地元食材を生かした調理方法などの提供	地元産の生かした調理方法などの提供	家庭菜園などに生かせる栽培技術の提供	観光農園や農業体験ツアーなど、体験型観光の充実	農作業の手伝いを必要としている生産者の情報提供	生産者の思いや農業の苦勞などを生産者から直接聞く機会の提供	その他	特にない・わからない
(%)										
対象者全体	6,303	60.2	43.5	41.0	39.8	24.2	21.5	2.2	6.7	
性別	男性	2,358	57.7	36.0	40.0	38.7	22.8	23.5	3.3	8.8
	女性	3,921	61.8	48.1	41.6	40.6	25.1	20.2	1.5	5.4
年代別	20歳～29歳	696	53.7	43.7	43.0	50.9	29.7	15.4	2.7	5.6
	30歳～39歳	1,113	57.6	45.4	40.8	47.9	25.2	16.5	2.6	5.8
	40歳～49歳	1,149	57.7	44.2	39.8	44.2	29.5	18.9	3.3	6.5
	50歳～59歳	1,243	62.7	46.8	40.9	37.2	26.1	19.6	1.6	6.1
	60歳～69歳	1,213	65.5	43.5	43.4	31.7	19.8	28.1	1.0	6.6
	70歳以上	875	61.1	35.9	38.3	30.5	15.0	29.3	1.9	9.9

 対象者全体の値と比較し10%以上高い
 対象者全体の値と比較し10%以上低い

【性別】 性別でみると、女性層で「地元食材を生かした調理方法などを生産者から教えてもらう機会の提供」(48.1%)が高くなっている。

【年代別】 年代別にみると、高齢層ほど「生産者の思いや農業の苦勞などを生産者から直接聞く機会の提供」のスコアが高くなる傾向。反対に若年層ほど「観光農園や農業体験ツアーなど、体験型観光の充実」のスコアが高くなり、20代層(50.9%)では対象者全体と比較し10ポイント以上高くなっている。